

俱企振 第 181 号

平成 20 年 10 月 15 日

国土交通省道路局長 様

俱知安町長 福島 世二



今後の道路行政についての意見・提案について

国道企第 37 号で依頼のあったこのことについて別紙のとおり意見・提案を提出いたします。

記

1 提出書類

- ① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など（様式①）
- ②－1 地域の現状と抱える課題（様式②）
- ②－2 地域のめざすべき将来像（様式③）
- ③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）（様式④）

（企画振興課企画係）

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道倶知安町

◎高速交通網の整備が最も優先されるべきと考える。

北海道は需要が少ないのではとの批判があるが、高速交通網の整備は単に需要の大小を指標にすべきではない。必要性の高さが主張されるべきであり、都市間距離が長いため、医療・物流面からも高速交通網の整備が急務である

◎地域の状況に応じて、道路の規格・構造を柔軟に設定することや事業の迅速化を重視した道路行政を推進すべきと考える。

◎地域住民からは生活道路の整備を求める要望が多いが、厳しい財政状況のため予算確保が困難な状況が続いており、地方道整備及び維持補修に対する安定的な財政支援措置を要望する。

◎冬期の効率的な除雪体制について、国道や道道、町道との連携体制の構築の検討を進める必要がある。

②-1 地域の現状と抱える課題

北海道倶知安町

○ 現状

住み続けたいと思える快適さと安らぎが求められている。

その実現に向けた、まちづくりの骨格となる道路整備は、状況に応じ緊急性や必要性など優先順位をつけながら計画的に整備を進めてきたが、ここ数年は、厳しい財政事情の下、予算確保が難しい状況が続き、住民の要望に応える事業が実施できていない状況にある。

○ 課題

ユニバーサルデザインによる道路環境整備と公共交通のバリアフリー化促進の考え方にに基づき、まちづくりの骨格となる道路、良質な住宅、上下水道の充実、町の価値を高める景観など、まちを形づくる要素を整える必要がある。

また、高齢化や生活様式の変化などから、自宅に居ながらに必要な情報が得られるような環境づくりと、公共交通機関などで気軽に外出できる環境づくりが課題となる。

さらに、北海道新幹線、北海道横断自動車道(黒松内～小樽間)の開業・開通には長い時間を要するが、国際観光リゾート地や後志地域の医療や福祉、教育、文化等の中核、国内外の多様な交流の拠点などを目指す本町にとって、この高速交通体系の整備に向けた計画的な取組みが求められている。

②-2 地域の目指すべき将来像

北海道倶知安町

◎便利で快適な都市(まち)づくりの推進

町民はもとより多くの人々が暮らしやすく、住み続けたいと思える、安全で快適な都市(まち)をつくる。

◎国際都市への基盤づくり

関係市町村、関係機関・団体等、町民、事業者などとの連携を強化し、北海道新幹線の建設促進と北海道横断自動車道(黒松内～小樽間)の整備促進を図り、高速交通体系の整備を機会とした国際都市の形成を目指す。

◎安全に暮らせるまち

日々、安全に安心して暮らせるまちをつくる。

◎次の世代に引継げるまち

資源循環と美しい風景、魅力と快適さがある町をつくり、次の世代に引継ぐ。

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

北海道倶知安町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	北海道横断自動車道(黒松内～小樽間)の整備促進	北海道縦貫自動車道との連結による環状ルートが形成され、道南と道央を結ぶ代替機能が確立され、災害時、積雪時の動脈が確保される。 道内都市からのアクセス時間の短縮により日帰りレジャー客の増加、道外からの集客など観光振興の向上が期待される。 地方センター病院・地域センター病院へ高速・安全・確実な対応が可能となり、緊急医療体制が一層確保される。	
計画的・効率的な維持管理や更新の推進	老朽化した橋梁、舗装など道路の計画的な修繕の実施	適切なメンテナンスによる維持管理費の縮減が図られる。	